

地球温暖化防止活動推進センター通信

推進員密着レポート
〈初心者向け〉グリーンカーテンの作り方講習会

夏の節電対策に、ゴーヤやアサガオなどの植物を育てて作る「グリーンカーテン」をはじめませんか——。5月中旬、佐久市役所で開かれた講習会の講師を務めた長野県地球温暖化防止活動推進員の小池清志さん（佐久市）に密着し、「一石五鳥」というグリーンカーテンの作り方を学びました。（県センター 本山 聖一）



小池さんは、「自然に寄り添い、心豊かな第二の人生」をモットーに、後世に良い環境を残すため、食べ物、エネルギーの自給自足を実践。食べ物は150品目を有機無農薬栽培し、二酸化炭素を出さないエコ住宅で、太陽光発電・太陽熱給湯・風力発電・雨水の再利用などに取り組んでいます。



コツを話す小池さん

講習会は2017年度から佐久市が開いており、地球温暖化のメカニズムや省エネ・節電など、グリーンカーテンが果たす役割を楽しみながら学んでもらうことを目的としています。



アサガオ

ゴーヤ

撮影
2018.7.27

- 座学では、グリーンカーテンは「一石五鳥」で、
- ① 二酸化炭素吸収
 - ② 日陰で涼しい
 - ③ 冷房稼働時間が減る
 - ④ 花が楽しめる
 - ⑤ ゴーヤが食べられる
- と利点を説明。

小池さん宅で実践しているグリーンカーテン【写真左下】は、カーテンの外側より内側が最大で13.6℃涼しくなり、ゴーヤの実の収穫は約260個だったそうです（2018年7～10月実績）。

植え込み体験【写真右下】では、育て方を伝授。一番太い中心の茎の親づるが約1mになるまでに、親づるの先を切るのがポイント。切ることで子づる、孫づるが成長し、面ができるといいいます。

小池さんは、1人1円の節約を提案し、日本で1日あたり約1億3千万円を節約できるとして、「できる範囲でコツコツと継続を」と呼び掛けました。



「元気に育って」とアサガオなどの苗を植える参加者

信州環境カレッジ協働講座
「地域循環共生圏コーディネーター育成講座」参加者募集中

「地域循環共生圏」とは、地域の資源、自分たちの目の前にあるものの可能性をもう一度考え直し、その資源を有効活用しながら、環境・経済・社会をよくしよう、資源を融通し合うネットワークを作っていこうとするものです。そのためには、プレーヤーやコーディネーターを軸に様々な主体との協働が重要となってきます。

この講座は、「新たな経済の仕組み」や「人材育成」の観点でフォーラムやワークショップを行い、信州における「地域循環共生圏づくり」を担う人材育成を目指します。7月から来年2月まで全9回を予定。

講座の内容、申し込み方法は、信州環境カレッジHP(QRコード)をご覧ください。

スタートアップフォーラム

- ◆日時 令和3年7月13日(火) 13:30～16:00 オンラインにて開催
- ◆内容 地域循環圏とは何かを理解し、ローカルSDGs達成に向けてスタートする
 - ◇講演「地域循環共生圏とは」「先輩に聞く～地域循環共生圏事例から～」他
 - ◇ワークショップ「持続可能な「ジモト」づくりをはばむものはなにか?」(仮)

